

AIオンデマンド交通「mobi」を活用した商店街活性化プロジェクト

東大阪「mobi」×商店街活性化プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	CommunityMobility(株)
事業実施地域	大阪府東大阪市
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 商業・農業 ・ 地域・移住 ・ 観光・まちづくり
共創パートナー	梅田タクシー(株)、瓢箪山中央商店街振興組合、石切参道商店街振興組合、東大阪市都市魅力産業スポーツ部商業課、東大阪市交通戦略室
運行形態	①AIオンデマンド交通 ②道路運送法21条
運行主体	梅田タクシー(株)

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

【課題】

- ・既存のオンデマンド交通の供給量不足（月2000人を超える利用があるが、恒常的に需要の約35%の予約が不可となっており、供給量が足りていない。）
- ・運行エリアの東部は、地形上、日常の移動に課題を抱えており、気軽に買い物・通院に出かけられる交通環境が整備されていない。
- ・エリア内の商店街は利用者が固着化しており、新規利用者の拡大が課題。（石切参道は、平日の利用に課題。瓢箪山商店街は日曜日の利用に課題）
- ・エリア内の商店街は観光地としてもポテンシャルもあるが、商店街同士をつなぐ交通がないため、観光客が商店街を周遊できない。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有（予定）

運輸局・運輸支局への事前相談

近畿運輸局

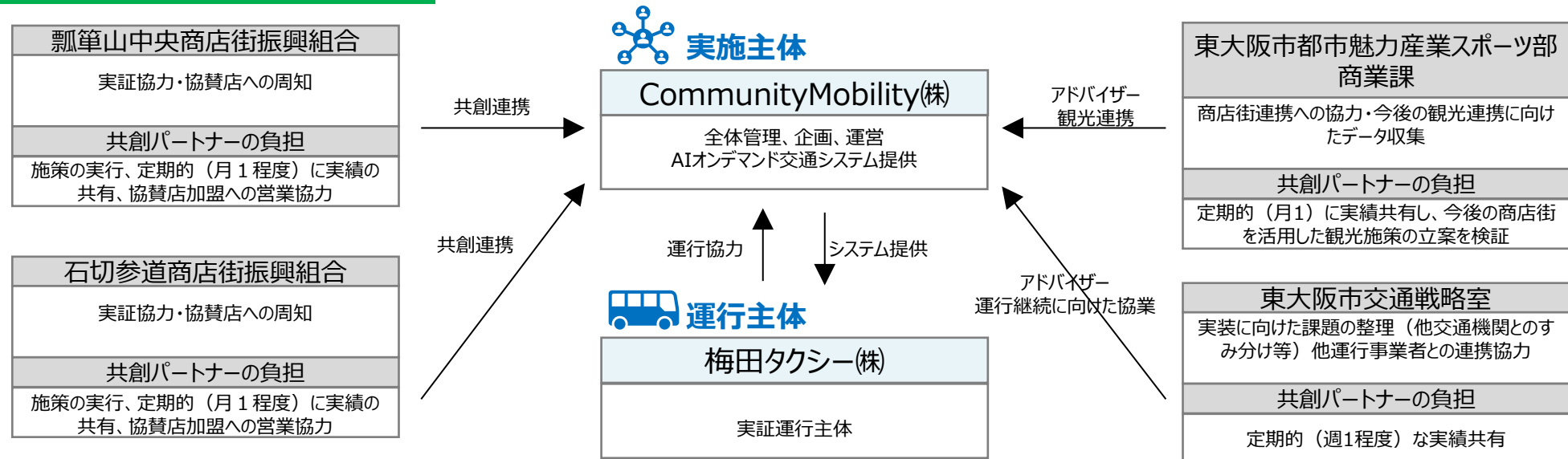
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

AIオンデマンド交通「mobi」を活用した商店街活性化プロジェクト

東大阪「mobi」×商店街活性化プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

- ・運行エリア内の商店街を連携し、オンデマンド交通で商店街に行くとポイントがたまる仕組みを構築。ポイントがたまると各種特典がもらえることで、「商店街に行く理由」を交通をフックに創出し、地域の活性化につなげる。
- ・各商店街をつなぐ交通として機能させ、観光施策を展開できる素地を作る

（地域の関係者との連携・協働）

梅田タクシー(株)：現在2台で運行しているが3台目を増車し、エリアの需要に十分な供給量を確保する。

各商店街振興組合：商店街内において、当プロジェクトに参画する店舗を集め、実際に住民が商店街を利用する目的を創出する。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

当エリアは通勤・通学の時間帯でバス利用が多いことから、**オンデマンドの運行時間を変更し（現行：7時～22時→9時～18時）「朝晩の時間帯は【バス】、昼の時間帯は【オンデマンド】」**という形を地域に積極的に発信し、公共交通の役割の分担を実現する。また、直近でバス路線が休止となった、現在のデマンド運行エリア外にあたる**吉田駅、東花園駅周辺に飛び地で乗降地を設定し**、地域の交通の利便性を確保する。

AIオンデマンド交通「mobi」を活用した商店街活性化プロジェクト

東大阪「mobi」×商店街活性化プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

施策.1

- ・商店街の乗降地の設置、見直し
- ・新しい乗降地の設定(吉田駅等)



施策.2

スタンプカードを作成し、mobiで
店舗に行くとポイントがたまる
仕組みを構築



施策.3

施策に応じた車両ラッピング



施策.4

運行時間の変更による、
既存の公共交通との連携

現在

7時～22時

今後

9時～18時

施策.5

各商店街の課題解決に向けたキャンペーンの実施

【サンロード瓢箪山】

【課題】

- ・ファミリー層の利用減
- ・日曜日の利用減

【施策】

- ・ファミリー向けのイベントを日曜に実施。
- mobi利用とのタイアップ

【石切参道商店街】

【課題】

- ・観光利用が主(地域の方の利用が少ない)
- ・平日は閑散としている

【施策】

- ・平日に地域の高齢者の方のコミュニティの場に整備。移動手段はmobi

6年度	6										
月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
交付手続 主体:CM		交付申請等								完了 報告	
実証内容PR等 主体:東大阪市・CM			住民説明・適宜PRを実施								
地域連携 主体:各商店街振興組合・CM・東大阪市			連携施策準備								
実証運行 主体:梅田タクシー、CM	2台運行				3台目増車・運行時間変更(交付決定後)						
結果分析 主体:CM									とりまとめ 次年度内容検討		

AIオンデマンド交通「mobi」を活用した商店街活性化プロジェクト

東大阪「mobi」×商店街活性化プラットフォーム

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

オンデマンドと路線バスの運行時間におけるすみわけを実現し、該当エリアの公共交通分担率を向上させる。また、バスの車内でオンデマンドの紹介、オンデマンドの車内で朝晩のバス利用の訴求等、地域交通としてつながりのある住民周知を実施し、運行事業者との協業を実現しながら、地域の交通利便性を実現していく。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

現在、既存のオンデマンド交通は月に延べ2500人前後の利用があり、現状の供給量（運行車両2台）の上限に達しているが（主に昼間の利用が多い）、増車を実現することで月3000人以上の利用者の確保を目指すとともに、各商店街への利用者数を1.5倍（現在月500人→目標月750人）且つ、新規顧客の開拓に向けた施策を実施し、商店街をフックとした地域コミュニティの創出を実現し、地域活性化につなげる

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

☐	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	☐	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
☐	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	☐	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

2023年より運行を開始した、現在のオンデマンド交通は実証1年目から多くの利用が発生し、予約不可発生率から運行台数2台という供給量では需要においていないという課題が露呈した。利用の4割弱が60代以上、主に昼間の時間の利用が多いという特徴から、実証2年目は地域の商店街と連携し、高齢者（交通弱者）が地域で活動しやすい環境を構築する。また、事業性の確保という点においても課題であるのは事実であり、商店街連携を通じ、商店街の観光利用に向けた素地を作り、今後、観光利用を新たな収入源とできるよう検証を重ねていく。現行の実証を通じ、行政としても、当デマンドが、将来的に交通計画に記載できる住民にとって必要な移動手段になるか検証をしていく予定。利用者からは、現状のオンデマンドに対し、非常に評価いただいております、事業者として地域に不可欠に交通に成長することを確信している。本格運行に移行できるよう、現状の課題解決に尽力していきたい。

資金面	本施策は、すべてCommunityMobilityの支出により展開予定
人材面（運転手の確保）	交通事業者の梅田交通様において、積極的なオンデマンドドライバーの採用を展開中